

第Ⅲ部

グローバル人材の育成



(1) シアトル語学研修 報告書

〈参加者〉

- ・生徒：本校より2名、兵庫県立御影高校より30名、計32名
- ・教員：本校より1名（報告者）、御影高校より2名、計3名
- ・現地スタッフ：1名

〈日程〉

- ・2023年7月21日（金）～8月1日（火）

〈滞在場所〉

- ・ワシントン大学

〈内容〉

- ①ESL (English as a Second Language) の授業を受ける。
- ②市場や街に出て、現地の人に英会話で交流。
- ③夕方以降の大学校舎内での食事等を含めた自由行動。

〈行程〉

日 時	活 動 内 容	
1 7/21 (金)	13:00	伊丹空港 集合（伊丹空港に現地集合）
	14:35	伊丹空港発（JL3006）
1 7/21 (金)	16:00	成田空港着→乗り継ぎ
	18:05	成田空港発（JL068）
	11:15 午後 夕刻	SEA 国際空港着 水門・Gasworks Park 昼食・見学 大学寮へ移動、寮の説明会、UW（大学） にて夕食
2 7/22 (土)	午前	朝市見学 大学校舎内にて昼食
	午後	ワシントン大学内ツアー、大学生との交流 等 繁華街にある UW Bookstore 見学、UW にて夕食
3 7/23 (日)	午前	シアトル美術館見学、ライトレールにて移 動、シアトルセンター見学・昼食
	午後	Amazon 社付近見学、ダウンタウンで買 い物、UW にて夕食
4 7/24 (月)	午前	ESL クラス、大学校舎内にて昼食
	午後	座談会（日米交流協会・担当者）、英語の 練習（校舎内）、UW にて夕食



5	7/25 (火)	午前 午後	ESL クラス、大学校舎内にて昼食 Greenlake 公園にて現地の人たちとの 交流・昼食、UW にて夕食
6	7/26 (水)	午前 午後	ESL クラス、大学校舎内にて昼食 ダウントウンにて英語のウォークラリー、 UW にて夕食
7	7/27 (木)	午前 午後	ESL クラス、大学校舎内にて昼食 フェリーに乗り Bainbridge Island 島見 学、UW にて夕食
8	7/28 (金)	午前 午後	ESL クラス、大学校舎内にて昼食 講演会、UW にて夕食
9	7/29 (土)	午前 午後	Pike Place Market 市場見学・昼食 University Village 見学・買い物 荷造り、UW にて夕食
10	7/30 (日)	午前 午後	大学寮 出発 市内観光 ホテル泊
11	7/31 (月)	午前 13:30	ホテル出発 → 空港へ SEA 国際空港 出発(JL067)
12	8/1 (火)	15:30 18:25 19:55	成田空港着→乗り継ぎ 成田空港発 (JL3009) 伊丹空港着 伊丹空港で現地解散

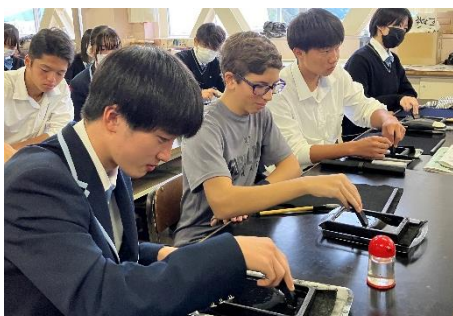


〈成果〉

- ・生徒たちは、はじめは知らない人を相手に英語でコミュニケーションを取ることに戸惑っていたが、徐々に自ら積極的に話かけられるようになった。
- ・生徒からは、「英語をより身近に感じられるようになった」、「将来、自分でシアトルにもう一度行きたいから学校での英語の勉強をもっと頑張りたい」などの意見が出ており、2学期以降の学習のモチベーション向上にもつながっている。

〈今後の継続のために〉

- ・本研修は本校の中心的な行事として継続して実施していきたいと考える。しかし、コロナ渦や世界情勢により旅費が高騰している中で、大きな経済的負担を保護者にかかることは難しいと考えており、この研修の成果が浸透するまでは、いずれかよりご支援をいただきたいと考える。

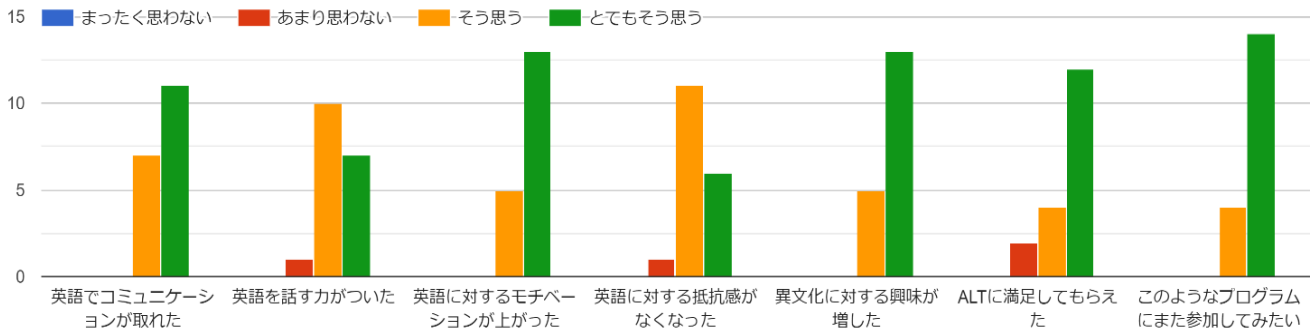


2023年10月20日、
米ワシントン州ワラワラ
市(姉妹都市)から留学生
が本校を訪問。



(2) 国際交流バスツアー アンケート結果

10/21(土) プログラム参加生徒 21名 ALT9名参加 (アンケート回答数 生徒18、ALT7)
ALT1名につき生徒2~3名のグループで宇治散策(平等院発、グループごとにコースを計画)

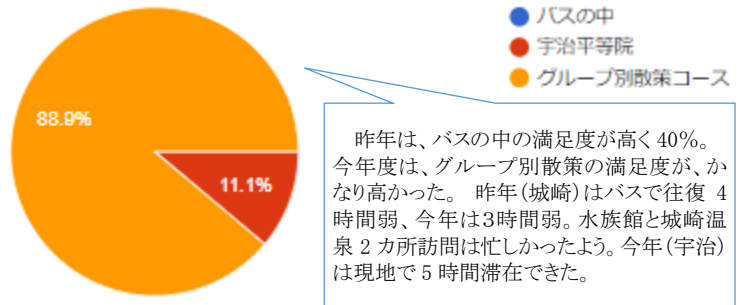


【生徒アンケート結果】

■このプログラムで満足した点・良かった点を具体的に記述してください

- ・留学ができない分、こういった場面で英語に触れることができ、とてもいい経験を積むことができました。フリートークの時間が多かったのが楽しかったです。
- ・自分たちで計画をしっかりと立て、それに沿いながらも、色々なお店やお寺などに臨機応変に対応できたことが良かったです。たくさんの歴史的な建造物を多く見ることができ、それぞれの歴史も学ぶことができました。
- ・私自身は、学校でALTの先生と話す機会はありませんので、たくさん英語を話せてすごく楽しかったし、英語の学習につながったので良かったです。
- ・今日のバスツアーで、英語をとても話せるようにはならなかったかもしれないけど、英語に対して抵抗感なども減って楽しく過ごせたところが良かったと思います。

■今回のツアーで一番印象に残ったのはどの場面ですか。



昨年、バスの中の満足度が高く40%。今年度は、グループ別散策の満足度が、かなり高かった。昨年(城崎)はバスで往復4時間弱、今年3時間弱。水族館と城崎温泉2カ所訪問は忙しかったよう。今年(宇治)は現地でも5時間滞在できた。

■このプログラムの経験を今後どのように生かしていきたいですか

- ・ワラワラなどへの留学に行きたいと思っているので、できるなら役立てたい。
- ・日々の授業でのグループワークに限らず色々な場面で英語を使えるように、単語だけを覚えるのではなく表現の仕方なども覚えていきたい。そしてもっと自分のコミュニケーション能力を高めたい。
- ・聞き取りや発音はただ覚えるだけじゃなくもって役に立たないことがわかったので、誰かと話す機会を増やしていきたいと思いました。
- ・今までよりは、英語や初対面の人との会話に対して抵抗感も減ったので、積極的に色々な人とコミュニケーションをとっていききたいと思います。
- ・道に困っている外国人に道案内などをしたいと思いました。
- ・英検の二次試験(面接)にも活かせると思う。

■このプログラムで改善すべき点があれば具体的に記述して下さい

- ・特になし、宇治のようなゆったりした場所が良いと思います。
- ・あまりないと思います。それぐらい楽しかったです。



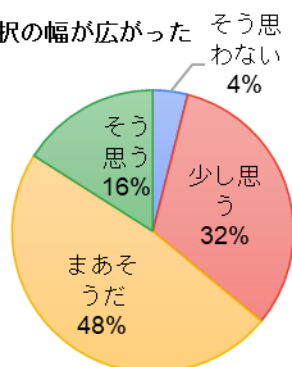
(3) JICA 関西訪問 アンケート結果

日時 令和5年12月15日(金)

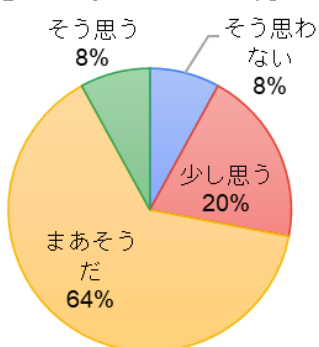
場所 JICA 関西

参加者 1年総合科学コース30人

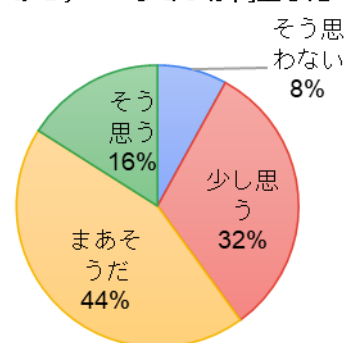
進路選択の幅が広がった



進路へのモチベーションが向上した



学習へのモチベーションが向上した



■生徒の感想

- ・海外に住んでいる人々にも綺麗な水が出る蛇口を使って欲しいと思いました。
- ・私たちが学校に行ってご飯を食べているのは当たり前ではないので、日々の生活の大事に送ってきたい。
- ・具体的にどのような仕事があるのか学ぶことができた。実際にラオスへ派遣された人のお話を聞き、海外で働くことの楽しさがわかりました。
- ・自分たちの探究に役立つような話が多かった
- ・自分が目指している国際関係学のこと含まれていたのも、将来自分はどんな職業が向いているのか考えることができた。
- ・国際協調の大切さや国々の経済の難しさについて知ることができました。途上国の文化を全て貧しいと捉えて切り捨てず、独自の文化も大切にしていきたいのが国際協調の一つだと思いました。
- ・開発途上国はその国だけではどうすることもできないことがあることがわかりました。その国と自国の同じところから親睦を深め、違うところからその国について知り、認め合うことが大切だと思いました。開発途上国には都市部はすごいけど農村部はあまり良い状況ではないところも沢山ある。ワークショップではそれぞれが違う意見を持っていて違う解決案を考えていることがわかりました。
- ・アルジェリアの弁当は思ったより美味しかった。
- ・今後は開発途上国についてまず知るということが大切だと思ったので知っていきたくと思いました。
- ・開発途上国での食生活の話聞かせていただいて、実際どんな味なのかすごく気になりました。外国の異なる文化にも偏見を持たず受け入れていくことが大事だと思いました。
- ・僕は特に海外青年協力隊の話が面白くて、協力隊といってもたくさんの種類があり自分の得意を活かせる場所があるかとも思いました。人生は本当にきっかけ一つだと思いました。
- ・私たちが食べない物を、他の国、地域で食べていることを私たちの食文化の物差しではかって偏見を持つことはいけないなと思いました。樋口さんのお話を聞いて、全然知らなかったマオリの文化や現状を知れてとてもいい経験になりました。また、やりたいと思った感情を大切に勇気をだして一歩を踏み出したいと思いました。



第Ⅳ部

新学科設置に向けた教員研修等の充実



(I) STEAM 教育研修会

日時 令和5年7月20日(木) 14:30~16:00

目的 STEAM 教育の魅力とその可能性を学ぶことにより、本校 STEAM 探究科のあり方について、教職員
の共通認識を育て、魅力ある学科設置に向かうための一歩とする。

講師 兵庫教育大学 森山潤教授
*兵庫教育大学大学院学校教育研究科・教授、博士(学校教育学)
先端教職課程カリキュラム開発センター・副センター長
専門分野:技術教育・情報教育・ICT 活用教育・STEAM 教育等

演題 「これから求められる STEAM 教育のあり方~鳳鳴 STEAM の創造に向けて~」

内容 日本における STEAM 教育の背景と考え方、これまで本校で行ってきた地域探究活動と STEAM 教
育との関連性について。

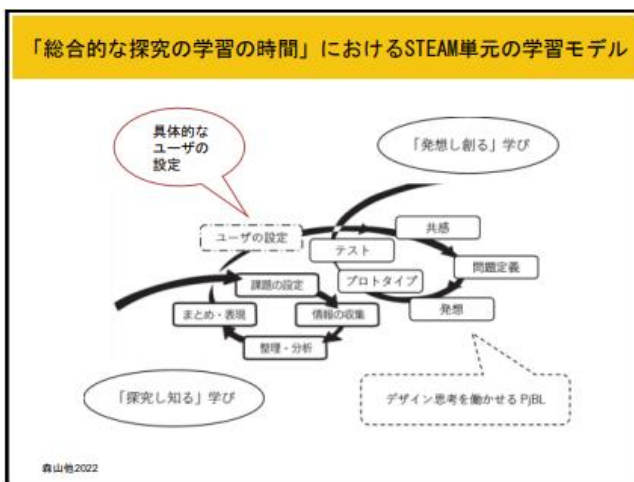
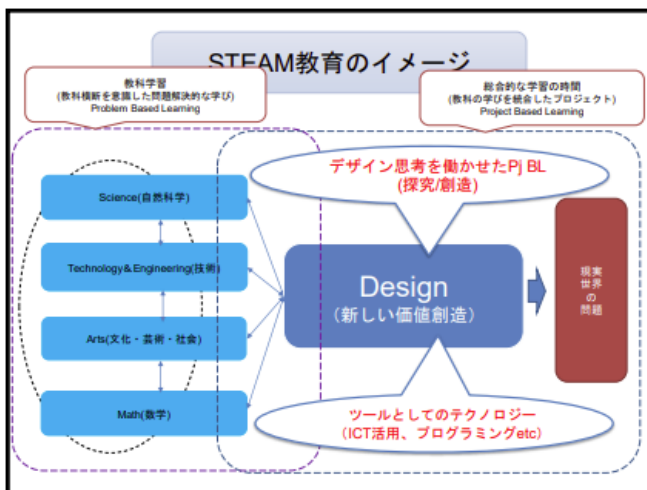
対象 篠山鳳鳴高校全教職員

〈研修会資料より〉

Point 日本におけるSTEAM教育の捉え
(文部科学省+経済産業省)+2

STEAM = STEM + Arts and Humanities

- 「総合的な学習の時間」を中心とした**教科横断的な学び**
→ 教科の学びが強制的に総合化されるカリキュラムマネジメント
- 文理融合の学び**
→ STEMだけでも、ArtsだけでもNG。両者が協働・架橋する学び。
→ プログラミングやGIGA端末活用等、テクノロジーとの関連。
- 各教科での学習が**実社会での課題解決**に生かされる学び
→ 実社会の中からテーマが設定され、その解決に教科の学びを働かせる
- 「知る」学びと「**創る**」学びが往還。
→ 「創る」学びは、探究/創造を中心とした**Project Based Learning**
- 学習者の**ワクワク(一人ひとり思い)**を大切にする学び。
→ 児童生徒が問題を見だし課題を設定し、探究/創造する学び。
教師はきっかけを与え、環境を整え、活動を方向づけるファシリテータ。



デザイン思考

Outputに期待したいこと

- 目的のつけどころの良さ、アイデアの面白さ
- Win-Winな関係を生み出す「仕組み」「仕掛け」
- 実現への期待がふくらむ「未来感」
- 効果の試算などの「シミュレーション」(予想)
- アイデアのネックや課題、解決に向けた提案

作品などの作りこみや上手さではないことに注意!

(2) ファシリテーション研修会

日時 令和5年8月30日(水) 14:00~16:00

目的 探究活動をはじめ、会議等において、参加者全員を活かし、チームワークと意欲が生まれるようなファシリテーションを学ぶことにより、今後の教育活動の活性化に生かす。

講師 兵庫教育大学 教授 宇野 宏幸

*兵庫教育大学大学院学校教育研究科 教授、博士(人間科学)

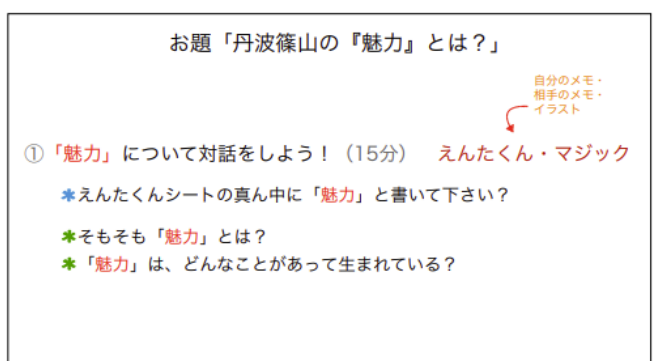
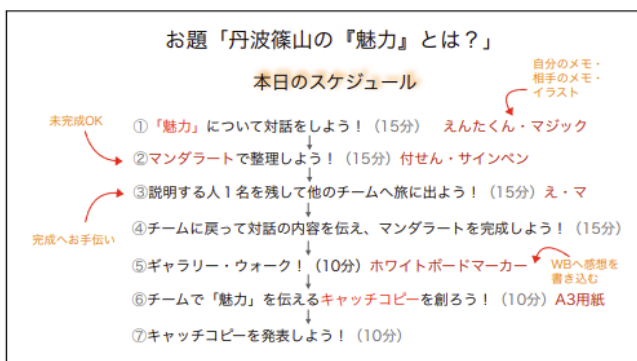
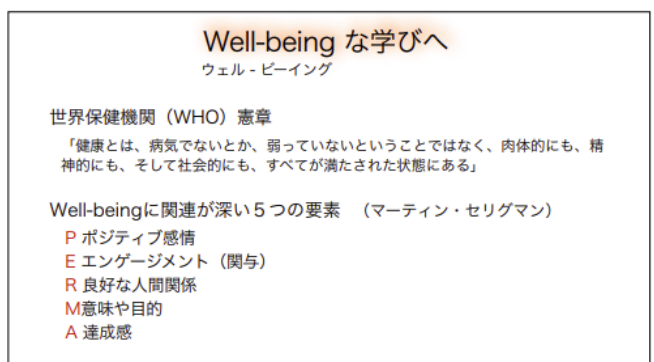
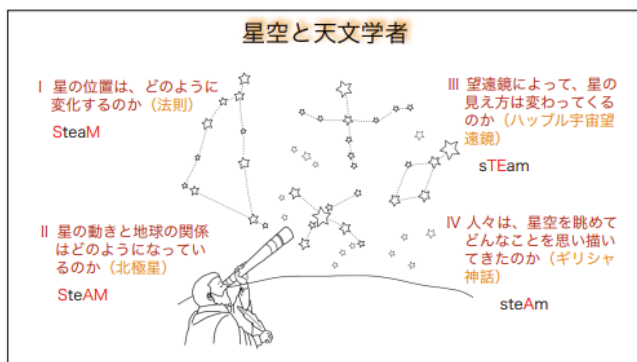
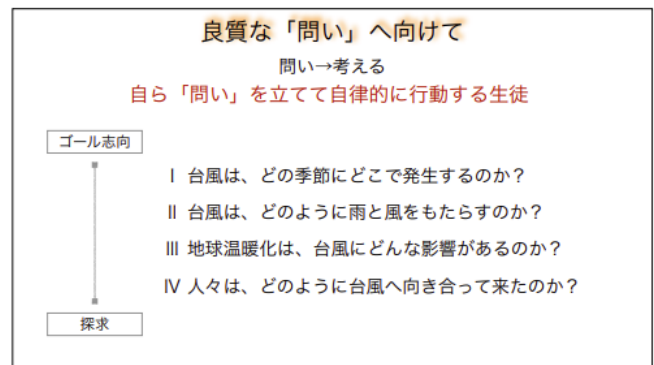
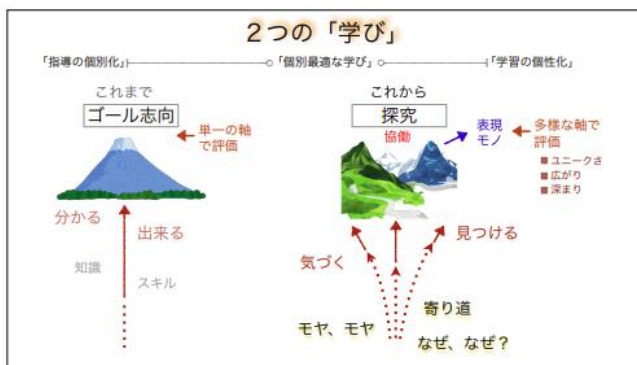
専門分野:発達障害/通常学級の授業/リーダーシップ論/社会心理学 / 発達神経心理学

演題 「「探求」する学びで大切なこと~ワークショップを通して考え、感じてみる~」

内容 自ら課題を発見し、課題解決に向けての方法を探り、実践していく活動において、メンバーひとりひとりを活かし、意欲やチームワークを引き出していくファシリテーションについて学ぶ。

対象 篠山鳳鳴高校全教職員

<研修会資料より>



(3) コーディネーター研修

文部科学省委託「高校コーディネーター全国プラットフォーム構築事業」

令和5年度高校コーディネーター研修

回	内 容	職務要件 対応番号
対面研修① 7/13 (木) 13:00-17:00 7/14 (金) 9:00-12:00 @島根県民会館	「協働体制構築の基本のキ」 ①高校 CN とは何か？ 協働とは何か？ ・島根県内等 CN として活躍している方に話題提供頂き、CN のモデルに出会う ②連携協働のためのコミュニケーション基礎 ・自己を知る、自己を伝える技術、他者を知る技術、聞く技術 ③学習者としての在り方を磨く ・目標設定、学習計画づくり	①③
オンライン研修① 8月22日(火)14:30～16:30	「社会に開かれた教育課程と協働体制づくり」 講師：認定 NPO 法人カタリバ ディレクター 菅野祐太氏	①③ ④⑥
オンライン研修② 9月8日(金)14:30～16:30	「総合的な探究の時間と新学習指導要領から進路へ」 講師：島根大学 大学教育センター准教授 中村怜詞氏、 大正大学 地域創生学部 教授 浦崎太郎氏	①④
オンライン研修③ 10月5日(木)14:30～16:30	「カリキュラム・マネジメント」 講師：大阪教育大学大学院連合教職実践研究科 教授 田村知子氏	①④
対面研修② 11/21 (火) 10:00～16:00 @福島県立ふたば未来学園	「総合的な探究の時間のコーディネート」 ①社会に開かれた教育課程を実現する高校 CN の役割 ②学校教育と地域や社会との繋ぎ方 ③探究を支える空間のデザイン ④生徒伴走のコツを学ぶ 講師：ふたば未来学園 林裕文先生 横山和毅統括コーディネーター	①④
オンライン研修④ 12月11日(月) 14:30～16:30	「協働論と学習論」 講師：東京都市大学環境学部 教授 佐藤真久氏	③②⑥
オンライン研修⑤ 1月10日(水)14:30～16:30	「社会資源、地域資源の発掘活用方法」 講師：国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部総括研究官 志々田まなみ氏	③②⑥
対面研修③ 2月21日(水)13:00～17:00 @文部科学省	「1年間のふりかえり」ふりかえりの方法 ①今年度のふりかえり ②ふりかえりの仕方を学ぶ ③次年度の目標設定と学習計画	①③

【高校コーディネーター職務要件（案）】

20230208 高校コーディネーターの職務要件整理まとめ（作業工程⑦までのとりまとめ）		青：教員との補充職務 オレンジ：地域コーディネーターや社会教育士等との補充職務	
区分	職務の内容	高校CNの専門職務 標準的な職務の内容例	補充職務 他の専門職との適切な業務と連携、分担の下、その専門性を生かして参画することが想定される職務の内容の例
① 学校の教育・運営等に関するコーディネーター	① 社会に開かれた教育課程における外部資源との連携・協働	① 総合的な探究の時間や学校設定教科・科目等における、外部資源との連携・協働 ② 総合的な探究の時間や学校設定教科・科目等に関連した、生徒の自主活動や課外活動における外部資源との連携・協働（例：	
	② 社会に開かれた教育課程におけるキャリア・マネジメント、計画策定・実施体制構築、企画立案、運営支援		① 年間の指導計画、評価方法の策定支援 ② 下記の項目における企画立案・運営支援 総合的な探究の時間や学校設定教科・科目／キャリア教育／特別活動（生徒会活動、学校行事、修学旅行、研修旅行、海外巡検等）／特色ある教育課程を実施するための教員研修／チーム学校を実現するためのチームビルディング／特色ある教育課程における生徒の伴走支援 ③ 社会に開かれた教育課程における生徒の伴走支援
	③ 生徒の特色化、魅力向上に関わる情報発信・共有支援		① 特色的な学校教育方針・活動の発信 ② 生徒募集活動の企画立案、運営支援
② 学校外の学習・活動等に関するコーディネーター	① 社会教育団体及び民間団体・企業等との調整・協働 ② 生徒のボランティアや社会教育プログラム、海外留学等への参加調整・接続 ③ 学校外での学習環境、活動機会への接点		① 生徒が参加する学校外の学習や活動の開発・支援（例）塾の設置、キャンプなど社会教育プログラムの開発支援 ② 県外留学生の生活・支援 ③ 地域における人材発掘・人材育成の制度構築支援
③ 協働体制の運営・経営に関するコーディネーター	① 地域や社会等の外部との協働組織体制の構築と運営	① 高校と外部団体、人材（地域住民や企業人、卒業生など）との協働体制（コンソーシアム・学校運営協議会等）の構築・運営 ② 共進ビジョンや事業計画の策定 ③ 定例会議、ワークショップの企画・運営	
	② 外部資源（人材、資金等）の確保、外部機関との連携	① 外部団体や人材、資源の発掘、連携・協働（例：大学や民間企業、他地域・海外の団体及び、専門家や大学生、社会人インターン、ボランティア等） ② 寄付金や助成金などの外部資金の獲得・活用	

	資質能力	本研修でのタグ	対面①	対面②	対面③	OL①	OL②	OL③	OL④	OL⑤	次年度	その他	0	1 (高校CN研修のレディネス)	2 (高校CNプレイヤーのレディネス)	3 (高校CNマネジャーのレディネス)	4 (各自設定)	5 (各自設定)		
基礎・基盤的な知識	学校教育コーディネーターにおける基礎的な知識	教育基本法(教育の目的、生涯学習の理念等)、教育史等				●							●	高校CNにとって学ぶべき分野項目だと認知していない(知らない)	学ぶべき分野項目として認知している	研修や自学自習等で概論レベルだが、学び理解し、情報収集をすることができる	各知識の定着に加え、新たな理論や制度変更などの情報を自ら収集し、知識のアップデートを常に図っている			
		学習指導要領/社会に開かれた教育課程		●		●								高校CNにとって学ぶべき分野項目だと認知していない(知らない)	学ぶべき分野項目として認知している	研修や自学自習等で概論レベルだが、学び理解し、情報収集をすることができる	各知識の定着に加え、新たな理論や制度変更などの情報を自ら収集し、知識のアップデートを常に図っている。			
		総合的な探究の時間		●		●														
		カリキュラム・マネジメント					●													
		多様な学習方法(アクティブラーニング、ICT等)		●		●							● ICT							
	生徒指導(新生徒指導提要)											●								
	キャリア教育/カウンセリング						●					●								
	特別支援教育												●							
	地域・社会コーディネーターにおける基礎的な知識	多様な学校外の教育プログラム(社会教育・企業主催・国や都道府県主催等のプログラム)											●	●	高校CNにとって学ぶべき分野項目だと認知していない(知らない)	学ぶべき分野項目として認知している	研修や自学自習等で概論レベルだが、学び理解し、情報収集をすることができる	各知識の定着に加え、新たな理論や制度変更などの情報を自ら収集し、知識のアップデートを常に図っている		
		ボランティアコーディネーター論											●							
協働体制構築における基礎的な知識	成人教育											●								
	県外留学生の受け入れ支援											●								
	地方行政の仕組み(首長部局、教育委員会、予算、議会等)											●		高校CNにとって学ぶべき分野項目だと認知していない(知らない)	学ぶべき分野項目として認知している	研修や自学自習等で概論レベルだが、学び理解し、情報収集をすることができる	各知識の定着に加え、新たな理論や制度変更などの情報を自ら収集し、知識のアップデートを常に図っている			
マネジメント能力	課題分析・課題設定力	システム思考	●										●	高校CNにとって学ぶべき分野項目だと認知していない(知らない)	学ぶべき分野項目として認知している	研修や自学自習等で概論レベルだが、学び理解し、情報収集をすることができる	各知識の定着に加え、新たな理論や制度変更などの情報を自ら収集し、知識のアップデートを常に図っている			
		地域・教育魅力化論 コンソーシアム 協働論と学習論 ファンディング											●							
	企画立案力	プロジェクトデザイン												●	高校CNにとって学ぶべき分野項目だと認知していない(知らない)	学ぶべき分野項目として認知している	研修や自学自習等で概論レベルだが、学び理解し、情報収集をすることができる	各知識の定着に加え、新たな理論や制度変更などの情報を自ら収集し、知識のアップデートを常に図っている		
		外部資源調達力 プロジェクトマネジメント												●	高校CNにとって学ぶべき分野項目だと認知していない(知らない)	学ぶべき分野項目として認知している	研修や自学自習等で概論レベルだが、学び理解し、情報収集をすることができる	各知識の定着に加え、新たな理論や制度変更などの情報を自ら収集し、知識のアップデートを常に図っている		
課題解決力	外部資源調達力 プロジェクトマネジメント												●	高校CNにとって学ぶべき分野項目だと認知していない(知らない)	学ぶべき分野項目として認知している	研修や自学自習等で概論レベルだが、学び理解し、情報収集をすることができる	各知識の定着に加え、新たな理論や制度変更などの情報を自ら収集し、知識のアップデートを常に図っている			
	システムコーチング プロセスコンサルテーション 人材開発、組織開発 働きかけ力												●	プロジェクトを進めるにあたり、グループやグループ間、組織全体の関係性に着目できない	プロジェクトを進めるにあたり、グループやグループ間、組織全体の関係性に着目できる	プロジェクトを進めるにあたり、グループやグループ間、組織全体の関係性に着目し、働きかけることができる	よりよい組織を目指し、グループやグループ間、組織全体のシステムのレベルにも働きかけ、組織内の当事者が自らの組織をよくしていけるように支援できる			
コーディネート能力	情報収集力	聴く力 ヒアリング 調査、検索	●											●	情報収集の方法や聴く手法を学んでおらず、その重要性を認識していない	コミュニケーションマナーを理解し、「聴く力」を駆使しながら、相手の話を聞くことができる。必要な情報は自ら積極的に収集することができる。	ヒアリングや日常会話を通し、自分に必要な情報を相手から引き出すことができる。社会に開かれた教育課程に必要な外部資源について、自ら積極的に動いて情報収集することができる。	目的にあわせて話を聞くべき人を設定し、アプローチできる。ヒアリングや日常会話を通し、相手に自分の意志を伝えることができ、信頼関係を構築することができる		
		ネットワーキング力	人的ネットワーキング ソーシャルキャピタル	●											●	ネットワーキングの活動をしていない	ネットワーキングの活動を開始している	ネットワーキングの活性化に寄与できている	自分の価値観に沿ったネットワークづくりができている	
	人間関係形成力	ラポールの形成 チームで働く力	●	●	●									●	チームで力を発揮する方法がわからない	チームで成果を出すには信頼関係が重要であることを知っている	ラポールの形成の重要性を認知しており、チームメンバー同士の支え合いや学び合いができている	チーム内や外部人材との信頼関係づくりの場や機会を設定し、よりよい関係性の構築に尽力することができる		
		協働体制構築力	ビジョン共有 ワークショップデザイン(合意形成・チーム学習)												●	協働体制(コンソーシアム)で、何を議論すべきかわからない	協働体制(コンソーシアム)において、どのような学校教育を実現し、さらにどのような社会を作っていきたいか、考え始めることができる。	協働体制(コンソーシアム)において、どのような学校教育を実現し、さらにどのような社会を作っていきたいかのビジョンを、発表・共有することができる。	ビジョンの実現に向けて、協働体制(コンソーシアム)で役割分担を促すことができる	
ファンリテート能力	学習環境設計力	ワークショップデザイン (チーム学習)	●	●	●								●	チーム学習やワークショップ等の創造的学習方法を学んだことがない	チーム学習やワークショップ等の創造的学習方法を現場に取り入れてみようと思っている。	チーム学習やワークショップ等の設計と実施にチャレンジできる	ワークショップなどに限らず、常に他者の学習環境を整えるような振る舞い、働きかけを意識・実行できている			
		学習促進と支援力	伴走する力		●									●	生徒の成長を効果的に促す方法がわからない	生徒が学び成長していくことを促す伴走方法のイメージが持っている	生徒が学び成長していくために、伴走に取り組んでいる	教員等が生徒への伴走型支援ができるように、「伴走者の伴走」ができる		
エージェンシー(学びに向かう態度)	自己認知力	メンタルモデル アンラーン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自己分析などで自分の強みや弱みを分析したことがない	自己分析などで自分の強みや弱みに向き合った経験があり、自分の特徴を言語化することができる	自分の強みや弱みを理解し、内省を通して自身のメンタルモデル(思考の癖)に気づくことができる	自身のメンタルモデルを認知し、思考や行動、習慣のパターンを変えることができる		
		志の設定・志の育成力	自己マスタリー	●	●	●								●	どのような人物になりたいか、どのように社会に貢献していきたいかを言語化できていない	高校CNの仕事を通して、どのように社会に貢献したいと考えているか、言語化することができる	高校CNの仕事を通して、どんな自分になりたいか、そのためにどのように自己を磨いていきたいかが発表することができる	絶えず、自己研鑽を続け、志を育成している		
	学びに向かう姿勢	自学自習 越境学習(違う環境、違う分野での学び) チーム学習	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	受動的な学びに留まっている	自分に学びが必要だと感じ、積極的主体的に意志を持って学ぼうとしている	自分が必要なテーマについて、学習者どうして学び合いの場をつくっている	仲間と学びのコミュニティを作り、常に新しい学びができる環境に身を置いている		

文部科学省委託「高校コーディネーター全国プラットフォーム構築事業」
R5年度高校コーディネーター研修 学習ポートフォリオ

レディネス:心理学用語。準備性。学習活動に効果的に従事することを可能ならしめる学習者の心身の準備状態をいう。心身の成熟、適切な予備訓練、興味あるいは動機づけなどに依存する。(出典:ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典)

受講番号	46	氏名	細見 祥平	学校名	兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	役職	教務部長
------	----	----	-------	-----	--------------	----	------

受講前

①高校CNとは何か？ 高校CNをスタートできるレディネス（準備された状態）は、どんな状態か？
 ②高校CNのレディネスに必要な資質能力は何か？

高校CNとは何か？ 高校CNをスタートさせるためのレディネス（準備された状態）はどんな状態か？

協働的な思考ができることと、探究活動について深い見識を有していること。

①高校CNのレディネスに必要な資質能力は何か？

②高校CNとは何か？ 高校CNをスタートさせるためのレディネス（準備された状態）はどんな状態か？

③高校CNをスタートできるレディネス（準備された状態）は、どんな状態か？

④高校CNのレディネスに必要な資質能力は何か？

対面研修①	鳥根県松江市	オンライン研修①	菅野氏	オンライン研修②	浦崎氏、中村氏	オンライン研修③	田村氏
学校CNに関する知識が全くない中で参加したので、全てが新鮮で、学ぶところの多い研修となった。協働について、特に「語り」の重要性を感じた。創造的学習方法の中にあつた、「自分の考えを『話す』ことは、自分の考えを『離す』こと」という視点が重要だと感じた。話すことによって自分の考えが対象化でき、考えを深化させることが可能になるのだと理解した。		学校教育と社会教育の協働という観点から、改めて「地域」とは何か、と考えた。小中学校にとつての地域と高校にとつての地域とは大きく異なる。学校所在地としての地域と通学範囲としての地域は全く異なっており、地域との協働という場合に学校所在地としての地域の期待や課題と通学範囲としての地域のそれは一致しない。今後も問い続けたい。		「地域」とは何か、という問いを持つ中で、「地域」との出会いではなく、「世界との出会い」という解が得られた。地域の事情や都合に振り回される探究では、真の学びにつながらない。生徒一人ひとりの「心地よさとの出会い」というテーマは探究を考えるうえで大切な視点だと学んだ。また、リーダーのあり方・考え方についても、日頃様々な課題を抱える中で、共感できる仲間を広げることの大切さを学ぶことができた。		本校の7カリキュラムマネジメントを考えるうえで大変参考になる講義であった。本校の課題は、外部環境が整っているのに反して、組織文化とリーダーシップに脆弱性を抱えていることだと理解することができた。教職員のカリキュラム改善への意欲と体制は良好な状態なので、この強みを生かすために研修や打合せの機会を定期的に設け、生徒目線のカリキュラムマネジメントを図りたい。	

対面研修②	ふたば未来学園	オンライン研修④	佐藤氏	オンライン研修⑤	志々田氏	対面研修③	東京
学校現場にいなからスクールポリシーと環境の関係性についてはあまり意識的ではなかった。これまでの学校自体が、まず与えられた環境前提でスクールポリシーが構築されてきたのに対し、ふたば未来学園ではまず明確なスクールポリシーがあり、その実現と実践のための環境が整えられていると感じた。また、午後のワークでは多くのコーディネーターの方々と課題の共有ができた。「探究に興味を持たせるにはどうすればいいのか」、「活動を自分事としてとらえさせるにはどうすればいいのか」など、特に生徒の根本的なモチベーションに関わる課題が多くみられた。		情報量が多く、重要性は理解できるが、十分に自分のものとすることができたとは言えない状況である。その中で、「探究」のあり方については新たな発見と学びがあつた。「SDGsの自分ごと化：日本の社会課題との関連づけ」については、現在直面している「総合的な探究の時間」の行き詰まり解消に大きなヒントが得られた。また、W型問題解決モデルを通じた「探究の自律化」という提言は新たな視点であり、学びを深めることができた。		生涯学習の観点から、フォーマル教育としての学校とインフォーマル教育としての地域の協働について、これまで気づくことのできなかつた視点からとらえなおすことができた。存在の目的も役割も全く異なる主体同士が、まさしく協働するには熟識が必要であると痛感した。学校としてどのように地域の課題に向き合うかは大きな課題である。また、地域と学校がお互いに信頼しあえる関係を築くために、コーディネーターの果たす役割は大きい。		リフレクションについて学んだ。授業改善や主体的な深い学びのため、これまでも振り返りの重要性は認識していたつもりだったが、自分の中で体系化されていなかった。今回、「経験のリフレクション」として「計画・結果・経験・学び・法則・計画」と手順を示していただいたことは非常に有意義な情報となった。月並みだが、過去を変えることはできないが、過去から学ぶことによって、未来を変えることができると実感することができた。	

自学自習メモ	例 7/30	例 9/11	8月28日	9月22日	11月19日	11月20日	1月27日	2月26日			
	『13歳からのファンリテーション』読了 定例会議に使用したい生徒会で教えたい	研修仲間と、佐藤先生の本をABDで読む会を開催。学びと協働の関係が見えた？	令和5年度エコシステム研究会@ZOOMオンライン 改革校に着任した高校CNの「職場環境づくり」	令和5年度普通科改革支援事業指定校発表会参加 @京都市立開建高等学校	STEAM探究科設置校対象教員研修@東京大学 制作展「学藝運動」鑑賞・ディスカッション	STEAM探究科設置校対象教員研修@東京大学 大学院教授講話・意見交換	STEAM探究活動先進校視察 #兵庫県立豊岡高等学校 探究発表会 課題研究の交流研修会	先進校視察 @福岡県立八幡高等学校 教科横断型授業の実践について			

受講後 (R5年度末)

①高校CNとは何か？ 高校CNをスタートできるレディネス（準備された状態）は、どんな状態か？
 ②高校CNのレディネスに必要な資質能力は何か？

③高校CNとは何か？ 高校CNをスタートさせるためのレディネス（準備された状態）はどんな状態か？

④高校CNをスタートできるレディネス（準備された状態）は、どんな状態か？

⑤高校CNのレディネスに必要な資質能力は何か？

⑥高校CNとは何か？ 高校CNをスタートさせるためのレディネス（準備された状態）はどんな状態か？

⑦高校CNをスタートできるレディネス（準備された状態）は、どんな状態か？

⑧高校CNのレディネスに必要な資質能力は何か？

まとめ

①高校CNについて全く知識や情報を持ち合わせていないところからスタートしたので、1年間を通して学びの多い研修となった。高校CNに望むことそのものについては研修前後で大きく変わることはなかったが、多くの高校CNに関わる中で、高校CNのあり方や役割に正解はなく、高校CNそれぞれが学校や地域の現実に応じて能力を発揮できるよう、現場の教員としてサポートしたいと考えようになった。

②研修内容はもちろんのことであるが、1年間で大切な仲間を得ることができたことが大きい。たくさん的高校CNの夢を知り、悩みを聞き、語り合うことができた。

③STEAM教育や教科横断型の教育について知見を深めることができた。

篠山鳳鳴高等学校カリキュラムマネジメント構造図

目標・内容・方法系列



条件整備系列

コ. 入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

- ① クリエイティブな発想を身につけ、将来の社会をデザインしていく生徒を募集する。
- ② 多様な価値観の中で自分を磨き、国際的な幅広い視野を持つようとする生徒を募集する。主体的に学び続け、チャレンジする意欲のある生徒を募集する。

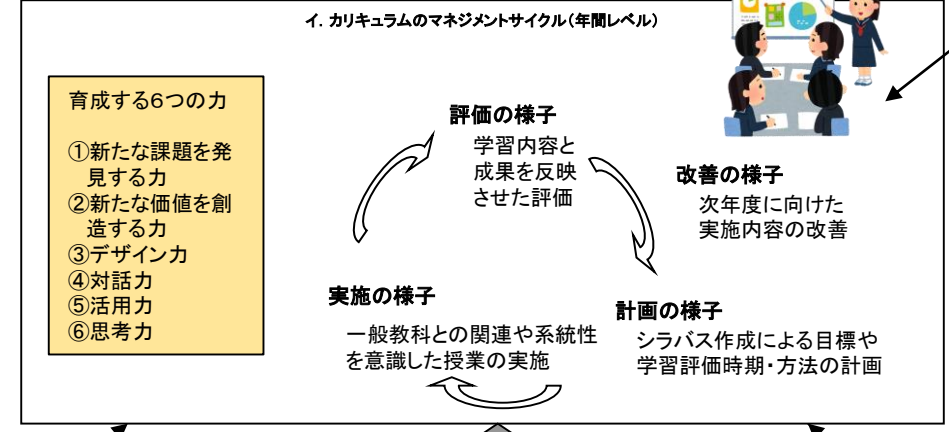


ア. 学校の教育目標の設定との具現化(グラデュエーション・ポリシー)

- ① これからの時代を生き抜くための課題解決力を身につけ、新たな価値を創造する力を育成する。
- ② 地域や国内、また世界の課題に目を向け、より広い視野で物事を考える能力を身につける。
- ③ 自らの興味関心に気づき、自分の能力を再認識し、自己実現を図る力を身につける。

ケ. 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)

- ① 教科横断的な学びを通じてクリエイティブな発想を育てるため、STEAM教育を推進する。
- ② 探究活動を推進する上で、外部の人材を活用し、より広い視野の中で深い学びを展開する。
- ③ 様々な体験の中で、生徒が主体となった探究活動が展開できるように推進する。



オ. リーダーの働き(校長、教頭、教務主任、研究主任など)
校長・教頭・教務部長・教育企画部長

ウ. 組織構造 人、もの、予算、時間、情報、組織体制、研修体制

- ・校務運営委員会
- ・STEAM探究推進委員会
- ・高校コーディネーター

【普通科改革支援事業】

- ・運営指導委員会
- ・コンソーシアム運営指導委員会

【高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)】

→ デジタル等成長分野の学部・学科への進学者の増加



エ. 学校文化(組織文化(カリキュラム文化+狭義の組織文化)+生徒(児童)文化+校風文化)

VUCA(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)の時代にあり、基礎・基本を大切にしながらも、激しい変化に対応しながら新たな価値を創造する人材を育成することが求められている。特に文理融合の学びを土台とし、調査や情報収集を積み重ね、精緻なデータ分析に基づいて解決策を発想し、先端技術を駆使したプロトタイプの検討など、新しい発想を提案できる力をつけていく必要がある。

カ. 家庭・地域社会等(学校関連系、企業、大学なども含む)

【コンソーシアム】

- ・丹波篠山市商工会
- ・みなと銀行
- ・関西経済連合
- 【兵庫教育大学(連携協定校)】【京都大学・大阪大学・神戸大学(兵庫県連携校)】

キ. 教育行政(文科省、教育委員会、教育センターなど)

文部科学省・兵庫県教育委員会・兵庫県教育研修所・兵庫県情報政策課

学校内

学校外

③ 相互関係

⑧ リーダーシップ

④ 相互関係

⑤ 相互関係

⑨ リーダーシップ

⑩ 共有・共有連携・協働

⑪ 規定・支援

⑫ 相談・要請・活用・情報提供等

⑥ 影響

② 成果

① 反映

(4) 先進校（先進企業）視察

訪問日	訪問先（学校・企業）	内 容
11月19日 20日	東京大学	東京大学制作展「學藝運動」見学 東京大学駒場博物館「つながるかたち展」見学
1月27日	豊岡高校	豊岡高校探究発表会（豊校アカデミア）
1月31日	加古川東高校	SSH 研究発表会
2月7日	明石北高校	課題研究発表会
2月7日	兵庫高校	創造科学科2年学校設定科目 「創造応用I」発表会
2月8日 9日	神戸高校	SSH 課題研究発表会（総合理学科） 神戸高校探究活動発表会
2月11日	神戸大学附属中等教育学校	授業研究会及びSSH 報告会
2月17日	姫路西高校	SSH 研究発表会
2月26日	福岡県立八幡高校	学校訪問 学際領域令和6年度新学科開設 学校設定科目「知の統合」による横断型授業
3月15日	(株)STEAM 東京理科大学	STEAM 教育に関して関連企業を訪問 数学体験館の見学
3月18日	長田高校	人文・数理探究類型 SSH 探究成果発表会
3月18日	岡山学芸館高校	探究発表会
3月19日	宮城県立仙台第三高校	学校訪問 SSH 指定校 探究活動（三高メソッド）

- ① 11/19(日) 東京大学制作展「學藝運動」見学
意見交換 早稲田大学基礎理工学部研究科表現工学専攻 伊藤大貴氏（學藝運動プロデューサー）
東京大学医学部医学科・大学院情報学環教育部 橘卓見氏（東京大学大学院）
- 11/20(月) 東京大学駒場博物館「つながるかたち展」見学
意見交換 東京大学大学院情報学環 苗村健 氏(教授)、川越至桜 氏(准教授)
- 《意見交換で得られたもの》
- 作品のチーム作りのために心掛けていること
- ・フリートーク（自分にどんなスキルがあるかプレゼン）から興味の方向が合う仲間を作ることができる。（ヘッドハンティング）
 - ・初めからシーズがあるよりもゼロから始める方が楽である。
 - ・リサーチによって既にやられていないことをやる新規性が楽しい。
 - ・芸術性を高めるための努力を怠らないことが重要（映画を観る等）。
- 高校時代にやっておきたいこと
- ・コミュニケーションカ→中高生時代にいろんな集団に入るべきである。
 - ・実際自分でやってみないと、人聞きだけではダメである。
 - ・世界史はやっていないと批評性が薄くなる。数学はすべての学問のツールである。
 - ・普段から疑問を持って生きていけば感わされない。
 - ・ある程度枠づけられた中での “自由 “が大切。自分で問いを立てることが大切。
 - ・オリジナルでありたい 。そこから批評性が生まれる。
- 高校教師に求めること。
- ・変な角度から来る人をほめること。
 - ・制限がある中で苦勞してやりくりした結果生まれるクリエイト、シチュエーションによるクリエイトがある。
 - ・私服（選択の自由）・文化祭を本気でやる。行動を否定しないことが大切。
 - ・授業の最後にアウトプットする。比べるのではなくシェアする。
 - ・主体性の成功体験が必要である。協同作業としての授業。
 - ・議論の回数がクオリティーの高さにつながる。
 - ・疑問を持ったらすぐに質問できる雰囲気作りが大切である。

- ・質問が自己主張。
- ・問いを立てるだけの授業があっても良い。問いの良さを競い合う。質問づくりの仕掛けを作る。
- ・図書館の充実。空間が拓けていきたくなる。格好いい。
- ・自由に使えるギャラリーを用意する。（展示が継続的にできるスペースで意見を聴く）
- ・映像の情報量—どう切り取るか。切り捨てる勇気が重要。
- ・映像を作り合う。コンペではいろんなジャンルを許す。
- ・ものを作るとは失敗体験を作ること
- ・発表の期間は小規模でも短いスパンで行い相互評価をこまめに行う。評価の回数が探究の強度。
- ・「先生=正しい、偉い」でなく「先生のいうことをアレンジできるのが自分」という姿勢を持たせる。
- ・最初はある程度の枠組みも必要。生徒向けのワークショップなど。

② 1月27日 豊岡高校 豊岡高校探究発表会（豊校アカデミア）見学

《見学により得られたもの》

- ・テーマ設定の自由度が大きくジャンルも多岐にわたっていた。やはり「地域」に限定した探究には限界があると感じた。
- ・ポスター発表時に視聴者からのコメントをポスター横のラミネートシートにシールで貼付する方法を用いていた。他にも見せるための工夫が随所に見られた。
- ・豊岡高校卒業生の大学生・大学院生による発表
- ・質問力を鍛える必要性を強く感じた。

③ 2月7日 兵庫高校 創造科学科2年学校設定科目「創造応用Ⅰ」発表会見学

《見学により得られたもの》

- ・研究テーマを決める際、生徒の興味関心に沿ったものにするのを徹底。
 - テーマ決定を急かさず教員が興味を深掘りしていく手助けをしていく。色々な実験や文献を読む体験をさせ、自分がどのようなアプローチが好きなのかに気づかせる機会づくりをしている。生徒がやりたい研究をさせる。
- ・一人一人がより当事者意識を持ってかつスピード感を持って研究に取り組んでいる。
- ・大学の先生との連携
 - 週に1回以上は連絡を取り生徒との橋渡しをしている。その過程で高校教員も研究方法や新たな視点を学んでいる。
 - ・神大大学院教授からの助言「この研究が社会に役立つか否かばかり目がいくが、役立たないかもしれないが、分らなかったことが少しでも分かるようになっただけで大成功。」
 - 研究が社会に役立つか否かよりも生徒の関心を大事にすることを学校全体として大切にしている。テーマ決定とにかくこだわる。（生徒の興味関心に沿っているか）

④ 2月7日 兵庫県立明石北高等学校 51回生自然科学科課題研究発表会見学

《見学により得られたもの》

- ・1年生のうちは、物・化・生の基礎学習や文献調査法についてインプットする時間を多く取っている。先行研究を十分活用した上で、独創的な発表になるように気を付けている。
- ・発表は、原稿を持たずにグループのメンバー全員が見学者に説明していた。
- ・自然科学科の発表だけに、指導教員は数学・理科の教員のみが当たっているようだった。

⑤ 2月8日 兵庫県立神戸高等学校 SSH 課題研究発表会（総合理学科）見学および意見交換

《見学・意見交換により得られたもの》

- ・新学科の1年生1学期は翌年以降の宣伝という意味でも重要。その学生が出身中学校や出身塾で新学科の様子を話すことで、中学校や塾の先生からの印象が大きく変わる。もちろん、その後の探究活動を円滑に進めるためということも前提に、1年生1学期は①機器の機能や扱い方を学ぶ。②大学や企業に訪問、もしくは来校してもらい、様々なものに触れる機会を多くとる。
- ・1年生2学期以降は、2年時以降の探究活動本番に向けてのプレ探究やテーマ設定の仕方を学ぶ。生徒たちの疑問や興味に応じてグループを編成し、そのグループの中でさらに疑問を精査していく。この作業に約1.5か月。
- ・1年時→2年時の春休みの課題として、探究の課題設定を課す。今回のテーマも教員は一切の口出しをしておらず、生徒が1から考えたもの。

- ・2年生は1年を通して、設定した課題の解決に挑む。担当教員に専門性はないが、運営指導委員会の先生やSA（サイエンスアドバイザー・神戸高校のOG）の手を借りて進めるので、特に問題はない。
- ・発表は2年生の5月、11月、2月の計3回。3年生は主に校外向けの発表。例えば日経新聞が主催する課題研究発表会など。
- ・1年生の4月からテーマや問いの設定をさせるのは無理がある。神戸高校の生徒でもそのやり方では軌道に乗れないのではないかと。1年生は土壌固めを
- ・素人が聞いても非常にわかりやすい発表、どの生徒も原稿を読むことなどはせず、身振り手振りを交えて熱意のこもった発表をしており、専門知識を持たない人を飽きさせない発表であった。

⑥ 2月9日 兵庫県立神戸高等学校 神戸高校探究活動発表会見学

《見学により得られたもの》

- ・テーマ設定は生徒が自分で決めたものであり、教員側から準備したものではない。
- 本校生徒も可能であれば、自分の興味でテーマを設定することが望ましいと考える。普段の授業で様々なことに興味を持たせることが重要。

・4系統、72グループの発表

内訳：人文科学系17グループ・社会科学系12グループ・理工農学系30グループ・医歯薬家政系13グループ

・講堂で発表するグループが6つ、他のグループは指定の教室、または廊下、踊り場などで発表

→講堂で、全員に聞かせる発表会もいいが、このように全体発表と教室発表を同時展開させることも、発表者が多く発表の機会を得られるので良い。

・口頭発表は発表内容を丸暗記や原稿を読むわけではなく、内容をしっかりと理解して発表、原稿を読んでいる生徒はほぼ皆無である。

・質疑応答では、質問者はポイントを押さえた明瞭簡潔な質問内容であった。また、質問が1ターンで終わらず、返ってきた答えに即し、必ず2つ目の深堀りした質問が行えていた。（内容も批判的ではなく、探究がさらに深まるようなものであった）また、発表者、質問者ともに、「ご質問ありがとうございます。」「分かりやすい発表でした、ありがとうございます。」など、質疑応答の所作が備わっていた。

→プレゼンの基礎などを学ぶ機会や、生徒が他校の発表を聞く機会を持てればと思う。

・発表の内容としては「実験をする」、実験が難しいものであれば「データを集め、自分なりに分析をする」、「結果から問いに対して提案をする」というものがほとんどであった。

→現在、本校の探究では、アンケートをとるものが増えてきている。STEAM探究科にむけて、自分ができていることを行い、成果物を作っていく方針を意識していく必要がある。

→探究はR-PDCAサイクルに則って行われていた。特に、【仮説の設定】では、いわゆる「定義」として先行研究を挙げるグループも多かった。それに加え、参考データがデータとして信憑性があるものかどうかも考察がなされていた。

・発表の聞き手が書くアドバイスシートが、短時間で書けるものとなっていた。（聞き手の負担が少ない）

・教室用と講堂用の2種類あったが、印象的だったのが、「印象に残ったことや参考になりそうなことを自由に記述」する欄が大きくとられており、文章表記ではなくハッシュタグのようにキーワードのみの記入となり、書く側の負担も減り、発表を聞くことにも集中できるので良いと思った。

・照度計、糖度計、pHメータなどはよく探究活動で使う機器なので、持っているとう便利。

⑦ 2月26日 福岡県立八幡高等学校視察

- ・令和6年度開設の文理共創科について概要とカリキュラムについて

- ・教科科目横断型授業の実践について

《視察により得られたもの》

- ・総合的な探究の時間の指導計画が無理なく体系的に練られており、グループ活動という横のつながりだけでなく、学年間の縦のつながりも大切にされていた。

- ・生徒の自主性・主体性を尊重しながらも、コーディネーターによる生徒活動の把握がしっかりとされており、学校としての責任ある情報発信と外部連携がなされている。

- ・総合的な探究の時間のテーマ設定は地域の課題に基づくものだが、最終的にはSDGsに落とし込むことにより、「自分たちには何ができるか」という自分事として課題を捉えさせようとしている点が大いに参考になった。逆にテーマを広げすぎると、世界規模の課題に向かいやすい。

- ・教科横断型授業「知の追求」については、普通教科の授業を数時間ずつ割り当てて（教師の自己申告）、トータルで35時間となるよう調整している。結果、時間割に入っていない1単位科目として設定できている。

⑧ 3月15日～16日 株式会社 steAm・AkeruE・日本科学未来館・数学体験館 意見交換、見学

意見交換（株式会社 steAm）・施設見学 AkeruE（パナソニックセンター東京）、日本科学未来館、数学体験館

《意見交換により得られたもの》

- ・机上で何かを学ぶ前に実体験として掴むことがスタートライン。そこから「なぜ？」や「これはどうなっているのか」という思考につなげていくことが重要である。
- ・とにかく生徒の興味関心に従ったテーマに。そのために、五感を使って色々な体験をさせることが重要である。
- ・「科学者のように学ぶ」：自分の好きをテーマに仮説→検証、それらをブラッシュアップし、同じサイクルで深めていく（関心に伴ったものであれば生徒は自走する）
- ・教員は「生徒に教える」という思考ではなく、「一緒に考える」、「生徒に教えてもらう」という姿勢、声掛けを行う。
- ・「Playful atmosphere」（遊び心のある雰囲気）を大切に。まずは生徒も教員も遊んでみて、興味関心の幅を広げ、色々な疑問を持たせる。
- ・毎日の生活の中で、疑問を持つ癖や自分の関心と結びつけられるものはないかという視点、アンテナを持っておく。
- ・アウトプットとして、発表会だけではなくワークショップを生徒にさせている学校もある。
- ・「探究とは何か」を知ってもらう中で、“〇〇をSTEAMで”の部分をも具体的に示してあげる。

⑨ 3月18日 県立長田高等学校 人文・数理探究類型 SSH 探究成果発表会 参加見学

全体会、ポスター発表(講堂)、口頭発表(教室) 参加

《参加見学により得られたもの》

- ・口頭発表とポスター発表を同時に進行し、口頭発表を教室で行っているため、生徒や保護者からの質問が多くあり、また質問の内容も素朴な疑問であるものも多い。本校は生徒数が少ないため、口頭発表を全員で聞いているが、質問する生徒は限られている。大会場では質問しにくいということを生徒から聞いており、教室で行うことによって、発表者との距離が縮まり質問が出やすくなると思われる。
- ・講堂での全体進行、口頭発表（各 HR 教室）での運営は、生徒自身が行っていた。また、来場者への会場案内も生徒が分担して行っていた。
- ・当日配布されたリーフレットは生徒作品の表紙絵が入ったアーティスティックなもので、来場者の目をひくものであった。
- ・講堂での開会式が始まるまで、生徒の一年間の活動の様子が分かるスライドを流していた。外部発表の様子などもあったが、どのように探究が進められているか、様子が分かるものになっていた。
- ・専門性の高い内容でありながら、生徒はやりがいをもって取り組んでいる様子が、発表者の表情や自信に満ちた声の大きさなどににじみ出ていた。STEAMに特化した探究 Day などがあってもよいと思う。
- ・ポスター発表は役割分担をせずに、一人で発表を行う形式で行われていた。このようにすることで、生徒自身が自分の発表内容を理解し、責任をもって発表を行えると思う。また、保護者の視点からも必ず自分の子供が発表する機会があるので、発表会に参加してもらいやすくなると考えられる。場所もポスター会場を全体会と同じ場所で行っており、保護者がポスター発表へ参加しやすい雰囲気になっている。保護者が生徒の発表をしっかりと聞き、それに満足してもらうことが地域への一番の宣伝になる。
- ・まず、保護者の来場者が非常に多いことに驚いた。ポスター発表と口頭発表の二段構えであったが、口頭発表はグループ全員で、ポスター発表は一人で責任をもって質疑応答まで行っていた。そのことで、だれか任せではなく、全員が責任をもって探究活動に取り組めるものとする。また、同じポスターをプレゼンするにしても、人によってプレゼンの仕方も違うので、班員もそれぞれのよいところを見て更なるよいプレゼンに仕上げている可能性を感じた。
- ・本校では、質疑応答の時間を余しがちだが、発表者から「説明が足りないものがあれば」ということばがけがあったり、補足説明を加えたりしていた。
- ・人文科学系の探究においても、重回帰分析のように必ずデータ分析を行い、入念に考察を行っていた。また、仮説の段階で予想される結果の近似値が、実際のデータとしてあがっていて、実験の組み立ての精巧さを感じた。
- ・担当者から器具については、必要そうなものを買えるときに買って置き、生徒がそれを見て使い方を考えさせる方針と聞いた。



創立者 青山忠誠(1859-1887)による揮毫。
私立篠山中年学舎の創設以来の建学の精神
は、『一貫之』(一以てこれを貫く)である。
一生涯を通じて真心や思いやりの心を大切に
した生き方を貫くという志を表している。

2023 年度 (令和 5 年度)

「文部科学省 新時代に対応した高等学校改革推進事業
(普通科改革支援事業)」活動報告集

発行日 2024 年 (令和 6 年) 3 月 29 日

発行者 兵庫県立篠山鳳鳴高等学校

〒669-2318 兵庫県丹波篠山市大熊 369

TEL 079-552-0047 FAX 079-552-0653